

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書	
令和6年 6月27日	
佐世保市長 殿	
提出者	
住 所 福岡市中央区長浜1丁目1-35	
氏 名 株式会社 鴻池組 九州支店	
執行役員支店長 北西 隆司	
電話番号 092-721-5028	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	株式会社 鴻池組 九州支店
事業場の所在地	福岡市中央区長浜1丁目1-35
計画期間	令和6年4月1日 ~ 令和7年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	総合工事業
② 事業の規模	完工高260億
③ 従業員数	190人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	現場において現場代理人が収集運搬・処分の委託契約を締結する。 委託契約は原則九州支店内でイーコントラクトによる電子契約による締結を行う。 管理表はイーリバースドットコムによる電子マニフェストによる管理を行う。

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図) 別紙参照			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
① 現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	排出量	2584.4 t	t
	(これまでに実施した取組) 分別とリサイクル率の良い中間処分会社を選定		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	排出量	2488.0 t	t
	(今後実施する予定の取組) 分別とリサイクル率の良い中間処分会社を選定		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃プラスチックにおける、塩ビ製と通常のプラスチックを分けて、両方ともリサイクルできるように取組指導している。		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃プラスチックにおける、塩ビ製と通常のプラスチックを分けることは継続するとともに、混合廃棄物0を目指し、分別を指導していく。		

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（ 令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	全 処 理 委 託 量	2584.4 t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	2553.1 t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(これまでに実施した取組) リサイクル率の高い中間処分会社の採用で100%リサイクル を目指す。		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	全 処 理 委 託 量	2488.0 t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	2461.0 t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組) リサイクル率の高い中間処分会社の採用で100%リサイクル を目指す。		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

(別紙)

	安定型産業廃棄物									管理型産業廃棄物					合計
	コンクリートが ら	アスファルト・コ ンクリートがら	ガラス・陶磁器 くず	廃プラスチック 類	金属くず	混合廃棄物 (安定型)	その他がれき 類(石綿含有 廃棄物)	ガラス・陶磁器 くず(石綿含有 廃棄物)	廃プラスチック 類(石綿含有 廃棄物)	建設汚泥	木くず	石膏ボード	繊維くず	混合廃棄物(管理 型含む)	
発生量(R5実績)	2383.4	121.1	8.6	7.2	0.1	1.8	1.5	3.5	0.2	34.1	2.6	6.7	0.1	13.5	2584.4
発生量(R6計画)	2300.0	120.0	8.0	7.0	0.0	1.0	1.0	3.0	0.0	30.0	2.0	6.0	0.0	10.0	2488.0
委託量(R5実績)	2383.4	121.1	8.6	7.2	0.1	1.8	1.5	3.5	0.2	34.1	2.6	6.7	0.1	13.5	2584.4
委託量(R6計画)	2300.0	120.0	8.0	7.0	0.0	1.0	1.0	3.0	0.0	30.0	2.0	6.0	0.0	10.0	2488.0
最終処分量(R5実績)	0.0	0.0	3.0	0.9	0.0	1.3	1.5	3.5	0.2	8.6	0.2	2.3	0.0	9.8	31.3
最終処分量(R6計画)	0.0	0.0	3.0	0.0	0.0	1.0	1.0	3.0	0.0	8.0	0.0	2.0	0.0	9.0	27.0
再生利用業者への処理委託 量(R5実績)	2383.4	121.1	5.6	6.3	0.1	0.5	0.0	0.0	0.0	25.5	2.4	4.4	0.1	3.7	2553.1
再生利用業者への処理委託 量(R6実績)	2300.0	120.0	5.0	7.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	22.0	2.0	4.0	0.0	1.0	2461.0

提出用